

Governor's Monthly Letter

ガバナー月信

2011-’12年度
国際ロータリー第2770地区



2012.5
第11号



◇春日部 大凧あげ祭り

春日部の大凧あげ祭りは毎年5月3日と5日、場所は西宝珠花の江戸川河川敷広場で行われます。凧の大きさは縦15m、横11m、重さ800kgで、赤は太陽を、緑は大地を表現しており、江戸時代後期より伝わる伝統行事です。その巨大な凧を称して“百畳敷の大凧”と呼ばれ、大きさ、伝統とともに各地の大凧あげ行事の中では日本一を誇ります。

国際ロータリー第2770地区
ガバナー 三國 明

〒330-0063 さいたま市浦和区高砂1-2-1-116 エイペックスター東館1階
TEL : 048-827-0022 FAX : 048-827-0011
E-mail : ri2770-184@plum.plala.or.jp

2012年3月27日・28日／川口リリア

『会長エレクト研修セミナー』終わる。

2012-13年度地区幹事 小林 玖仁男



「♪～ギリギリでいつも生きていたいから、さあ、思いっきりブチ破ろう リアルを手に入れるんだ」 これはKAT-TUNというグループの『リアルフェイス』という曲のサビの部分だ。『PETS・会長エレクト研修セミナー』の準備から本番の2日間、私の頭にはずっとこの曲が流れていた。

次年度の準備が最も忙しいのが3月中旬だ。PETSの準備をしながら、地区協議会の準備もし、あわせて国際大会の地区ナイトの交渉もしながら、地区大会の打ち合わせも始まっているという状態だからだ。

そして、このPETSの進行も、ちょっと危ない橋を渡るプランで組んだものだから、心がリアルにギリギリだったのだ。

田中エレクトが打ち出した次年度運営方針は『簡素にして大胆』。とにかく裏舞台は簡素なのである。簡素にやるとは、ギリギリを走ることになる。

たとえば全体会議。通常は12時まで全体会議をやるのだが、今回は11時45分までとした。12時までやるとそれから看板等の撤収作業があるので、午後のコマも借りなければならぬ。こ

れをケチるために11時45分としたのだ。時間が伸びると撤収が間に合わず、午後枠のお金もかかる。つまりギリギリの時間でハメ倒している。

同じ考え方で、ミッション会場を12時からオープンすると、午前・午後の2コマ分のお金がかかるので、昼食はレストランを使って、部屋は使わない。午後1時から借りた会議室は12時50分まで開かないので、副幹事はたった10分で設営をする。一つひとつをこういう感じで組んだ。全てのギリギリを列挙すると原稿量がかさむので割愛するが、ガバナースタッフは、田中サーカス団のような瞬発力の人々だ。

当日は、139名の登録をいただき、9部門の研修をみっちり2日間かけてやった。みなさん「こんなに勉強したのは久しぶりだ」と心地よい疲労感の中幕を閉じたのだが、この2日で、ロータリーをきっちりお済いしたことが会長エレクトには大事なことだ。

シアトルマリナーズの川崎がインタビューで「不安も自信の100%です」と言っていて、うまいことを言うなと思わずメモを取ったが、不安も自信も100%の人々の次年度がもうすぐはじまる。

IM報告

第3グループIM報告

第3グループガバナー補佐 岩崎 彰

第3グループは、2012年3月3日の土曜日、埼玉県知事（代理）、さいたま市長、さいたま市教育長等の外部のご来賓と三國明ガバナーをはじめとする大勢のロータリアンのご来賓のご臨席のもと、大宮駅東口にあるラフォーレ清水園においてインターナショニティミーティングを開催致しました。



世相を反映し、現代の若者は兎角内向きともいわれ、例えば米国の有名大学の日本人留学生は激減している中、埼玉県は、若者の留学支援のための予算化を図り、ロータリーは、昨年度から新世代を第5の奉仕部門として位置付けました。



こうした状況を踏まえ、第3グループとしては、IMを新世代向けに企画を致しました。

第一部は公開とし、「若者よ、身につけよう世界に通じる存在感！」というテーマで、NHKラジオ基礎英語3の担当講師の阿野幸一先生（文教大学准教授）を中心に、2010年度全国優勝の栄誉に輝いた、さいたま市立浦和高校の英語ディベートチームの皆さんと顧問の浜野清澄先生に加わっていただきて、視聴者参加型の講演会としました。

浜野先生は、「社会に出たときに自分の意見をしっかり言って、世界のマーケットで仕事を取ってこられる日本人を育てたい」と英語ディ

ベート学習の狙いを語り、生徒たちは、ディベートを通して、「英会話能力が向上したのはもちろん、人間的に成長できた」、「世界を見る視野が広がった」などと語り、来場の同世代の高校生たちに英語ディベートのチャレンジを勧めました。



阿野先生は、とても歯切れの良い口調で、「起承転結」で語られる日本語に対して英語では、「結論→理由」の順番で自分の意見を伝え、ディベートでは、論理的思考能力が養えると説明。英語を話すことでもう一つ別の窓ができ、友人や情報が格段に広がるとも。

高校によっては、期末テストと重なったため、新世代の参加は予定数にやや達しませんでしたが、多くのご来賓や来場者から高い評価をいただきました。



第二部では、ロータリー情報の交換や懇親というIM本来の目的を踏まえ、各クラブ会長から今年度事業の中間報告や会員増強の状況説明が行われました。

各クラブとも、東日本大震災の復興支援事業や継続の社会奉仕事業等充実したロータリー活動を展開しており、会員増強にも最大の精力を傾けていることが窺われました。乾杯の後、女性歌手等によるスタンダードジャズの演奏を聞きながら杯を傾け、大いに懇親を深めました。

IM報告

第11グループ報告

テーマ「大震災後のロータリー活動はいかにあるべきか」

第11グループ ガバナー補佐 山本 孝

2012年3月17日（土）グランドパレス塩釜に於いて第2770地区11グループと第2520地区6分区松塩ゾーンの合同インターナショナルミーティングを開催致しました。前例のない他地区的グループと合同IMになつたいきさつは、11グループIM実行委員会で東日本大震災・大津波にあわれた地方に訪問し自分の目で見て、自分の耳で聞き肌で感じとり、被害にあわれた方々と会話をし真実を把握した上で自分たちがどの様に心がけたら良いか、又、我々の知人にどの様に広報すべきかを勉強し今現在何が支援出来るか、今後どの様な支援方法があるのかを協議したいと決定を致しました。その思いを第2520地区の和田忠ガバナー補佐にお伝えしたところ、素早くご理解をいただきグループ内を取りまとめていただいて今回の合同IMになりました事、心より感謝申し上げます。



第2770地区11
グループより遠

方にもかかわらず94名の参加をいただき誠にありがとうございます。又、第2520地区6分区松塩ゾーンより100名の参加をいただき大変大勢のIMが開催されました。

三國明ガバナー・菅原一博ガバナーの挨拶に始まり国際ロータリー元理事菅野多利雄様に祝辞をいただきました。

テーマ「大震災後のロータリー活動はいかにあるべきか」に伴い、基調スピーチを国際ロー



タリー研修リーダー、コーディネーター桑原茂様より賜り、その後討議に移りました。

両グループの会長7名ずつ登壇をしてパネリスト発言を5名より質疑応答を時間をかけて活発な意見交換が出来ました。

講評として田村亮夫パストガバナーにしていただきました。



特に印象に残った言葉「皆さんとこれから本当に語り合う時だと思っています。ロータリーの出番はこれからです。今日という日が第一歩です…」

交流懇親会に入り、第2770地区バッヂを自分の襟より外して第2520地区の方々の襟に付けてプレゼントをしながら会話のきっかけを作り、非常に良い交流親睦が図れました。

東日本大震災復興支援チームより「まげねど宮城」の色紙の贈呈もありました。

少し残念だったのは時間に制限があり第2520地区の皆様に申し訳なく思っています。

宿泊先にて第2520地区和田忠ガバナー補佐を囲み7クラブの大懇親会が出来ました。

浴衣姿で本音でいろいろ話ができ、他のクラブの皆様とも親睦が図られたと思っています。

2日目、石巻港及び石巻市内を通り被災地の様子を目の当たりにし、瓦礫の山を通り抜けて改めて被害の大きさに驚き言葉が出てこない。

ただただお亡くなりになりました方々のご冥福をお祈りし被害にあわれた方々にお見舞いを申し上げます。



今大変関心がある原子力発電（女川原発）を和田忠ガバナー補佐及び東北電力所長黒澤隆司様（塙釜RC）の計らいで遠目でありますが視察致しました。

女川原発は今現在PR館等閉鎖されていますが両2名にて詳しく説明を受けました。誠に有

難うございました。

その後女川港・女川市内を視察しましたけれど、どう表現したら良いのか分かりません。

最後にこのインターナショナルミーティングを通して現実的なそして切実なお話がありました。被災を受けた立場、被災地を支援する立場が明確に情報交換をして、ロータリアンが奉仕と親睦の輪を広げ、価値観を共有するロータリー本来の姿を再認識する絶好の機会がありました。



IM報告

第6グループ報告

第6グループガバナー補佐 田中 昌夫

平成24年2月25日（土）に国際ロータリー第2770地区第6グループのインターナショナルミーティングの開催にあたり、ご来賓の杉戸町長古谷松雄様、宮代町長庄司博光様、ガバナー三國明様、パストガバナー、そして第6グループの皆様にはご多忙中多数のご参加をいただき誠にありがとうございました。

私がロータリーに入会したのは、ロータリー100周年の年で、本年度研修リーダーでパストガバナーの北清治様に、新会員として100周年のバッチを付けていただいた記憶がございます。そして、このグループのガバナー補佐が、三國ガバナーでした。まさか、入会当時私が7年後にガバナー補佐を仰せ付かるとは夢にも思いましたので、貴重な経験をさせていただいている。

第一部の記念講演では、ロータリー公共イメージコーディネーターでロータリーの友編集長の二神典子様を講師にお迎え致しまして、テーマに「ロータリ

ープランドの構築とロータリーの友について」をご講演していただきました。そして各クラブの会長スピーチといたしまして、ご講演のロータリープランドの構築についての感想とロータリーの友の活用と各クラブの活動等をスピーチしていただきました。

第二部の懇親会では、グループ内の親睦を深めながらRI、地区テーマに対しての取り組みや各クラブの親睦、奉仕活動等の情報交換をしていただきました。

本年度実行委員長はじめ各クラブのご協力をいただきIMを開催することができました。皆様に心から感謝を申し上げご報告とさせていただきます。



IM報告

第7グループ報告

第7グループガバナー補佐 深田 博明

3月24日（土）魚庄別館において2011-12年度第7グループインターナシティ・ミーティングを国際ロータリー第2770地区ガバナー三國 明様、蓮田市長中野和信様にご臨席を賜り開催致しました。

テーマ
「明日を担う若者に夢と希望を」
掲げ、第一部式典では



各クラブの現状報告、講演を元学習院大学特別客員教授木村 進様に「次代を担う若者をどう育てるか」を語っていただきました。

これからは“若い世代を育てる”ロータリーを目指して参りたいと思います。

第二部懇親会ではサッカー大会のビデオ放映、各クラブの会員の皆様と益々の懇親を深め、和やかな会となりました。

IMの一環として少年サッカーフェスティバル大会を企画、予選会を通して300名近い子供たちが参加。ロ

ータリーの奉仕の精神を伝え、又“若い世代にロータリー、そして奉仕活動”を若い世代と一緒にになってロータリーの奉仕活動を理解してもらいたい、その試みとして、蓮田駅前周辺清掃活動を少年サッカーチーム、ボイスカウト、インターアクト生の参加者100名を通じて“奉仕の種播き”を行いました。いずれ社会に出て花を咲かせることを願っています。

IMの開催にあたり、ご尽力頂きました関係者各位、皆様に感謝申し上げます。



友好クラブ活動報告

久喜菖蒲RC 会長 林 明

久喜市菖蒲町出身の本多静六博士の進言で、青森県野辺地駅構内に鉄道防雪林が植林された縁で、2006年6月3日、野辺地町にて久喜菖蒲RCは野辺地RCと友好クラブ締結調印式を行いました。以降、野辺地RCは毎年10月の久喜市民まつりに参加、ほたてや特産品の販売を、久喜RCは親睦旅行で野辺地を訪問するなどして友好を深めております。

2008年より始めました青少年育成交流事業は、隔年で相互地を訪問し合う事業で、第1回と3



回は久喜の小学生が野辺地を訪問、地元の小学生と交流をしながらキャンプ、海水浴、青森のねぶた見学等、地元の皆様の温かな人柄と、豊かな自然、歴史、伝統、文化を肌で触れる夏休みの旅でした。第2回は野辺地から小学生のサッカーチームを迎え、埼玉スタジアム専用練習場で久喜市の少年サッカーチームとの練習試合、スタジアム見学、交流会等を行ないました。第4回は、震災の影響で8か月遅れになりましたが、埼玉スタジアム、さきたま古墳、埼玉水族館、本多静六記念コーナー、鉄道博物館等見学と、菖蒲小学校で地元小学生とフロアーカーリングやゲームを楽しみ、交流会ではふるさと自慢を交互に行い、私たちも一緒に輪の中入りとても楽しい交流ができました。

RYLA研修を実施

テーマは『禅から学ぶリーダーシップの精神—マインドマップで自分探し—』

ローターアクト・RYLA委員長 三上 等 (さいたま櫻RC)

3月17日～18日の両日にかけてRYLA研修を開催致しました。

【研修1日目】

研修に先立ち、田中ガバナー・エレクトより「人間は経験した中でしか学ぶことは出来ない、だから沢山の経験をする必要がある」と世界的な冒険家だった、植村直己さんがいっておられました。この2日間でさらに多く出会いや経験を重ねられることを期待しております。」と研修に向けての熱いメッセージをいただきました。

引き続き森田担当諮問より「充実した2日間になることを期待しています。体調には充分気を付けて下さい。」とご挨拶をいただきました。

その後、研修は笠倉奈都先生より「禅の歴史 禅の精神」のお話をいただき、坐禅の指導を受けました。



この研修に参加する17歳～30歳の若者たちの中には外国人が4人、留学予定者や留学経験者もあり、日本文化を知りたいという目的もありましたので、禅が鎌倉期に入ってきて、その後どのように日本の歴史や文化に関わってきたか、武士はどうして禅を修めたか、リーダーシップにどう必要か、などのお話をさせていただきました（笠倉奈都先生より）。

佐々木偉彰先生より「マインドマップ」の手法を使い、7年後（3年後）の自分探しを行いました。7年後（3年後）誰の笑顔を見たいですか？の帶を一本作る。長期目標はなかなか出てこなくて難しく感じましたが、誰の笑顔を見たいか、と言われたら、すらすら出てきました。そしてそのためにはどうしたいのか、どうすべき



か、具体的に頭の中を整頓できました。

途中、オリエンタルランド元社長の福島俊郎様も参加、研修生に「最後まで諦めないことが大切」とお話をいただきました。

禅の作法にのっとり、食事をしたあと、自由時間に東京でも古く有名な銭湯「齊藤湯」に男子全員と青少年受入学生の女性陣も加わりました。

その後、坐禅を組み、マインドマップのグループワークの発表、懇親会と続き、男子全員で道場に宿泊、もはや修学旅行状態でした。

【研修2日目】

朝、6時に起床、早速坐禅を組み、茶道にのっとりお茶をいただきました。

その後、ロータリアンも合流して、禅の作法で朝食をいただきました。

朝の研修を前に、前夜到着した三國ガバナーより「RYLAは若い人達の指導力を養い奉仕の心を勉強する研修の場であります。禅は深く自分たちの心を見つめそこから他人の幸せを願うあるいは人の為に何かをするという心を養い、またマインドマップは自分の頭の中にある思いや考えをまとめて表現する事で指導力を強めるものであります。この研修を通じて、将来立派な社会人になって活躍していただきたい。」とご今回の研修の目的をお話いただきました。その後、研修生より2日間の研修の感想を各自発表しました。

午前10時、擇木道場に別れを告げバスで東京見学に出発、開業を待つ「スカイツリー」「皇居」などを見ながら、帝国ホテルで昼食をとり、怪我なく無事に大宮駅に到着しました。



東日本復興支援活動

陸前高田市：「三陸の光」への義援金寄贈

3月10日（土）、震災復興支援チーム関係者12名は、岩手県の被災地・陸前高田市を訪問し、津波で全市街地が壊滅した被災地で、被災住民や学童の支援に懸命に取り組んでいる「三陸イルミネーション実行委員会（別名：三陸の光）」に義援金を届けて参りました。

陸前高田市では唯一被害から免れた内陸側の「農免道」が、今でも代替メイン道路となっています。道幅6m程度のこの農免道に、復旧工事の大型ダンプや物資運搬のトラック、被災住民の車両等が集中し、加えて小学生から高校生までの生徒たちが通学に利用しています。もともと農免道は農業振興目的の補助金で維持されてきた道路ですから、幅員も照明灯などの安全施設も不十分で、日が落ちると途端に道路周辺は真っ暗となり、事故・防犯面でも極めて危険な状態にあります。

東日本大震災復興支援チーム 委員長 隅内 道三

「三陸の光」では、この農免道6kmの区間にLED街灯を設置し、生徒が帰宅する待機場所に照明を設置する支援事業に取り組んでいます。当地区からの義援金はこの支援事業の資金の一部に当てられます。義援金贈呈は、陸前高田市の仮庁舎にて、戸羽太市長同席の中で、井橋吉一直前ガバナーから「三陸の光」代表・鈴木健二氏に手渡されました。



山田町：「鎮魂と希望の鐘」と「保存大時計」の建立・序幕式へ参列

翌3月11日（日）、震災復興支援チームは盛岡に前泊し、もう一つの訪問先、山田町に向かいました。山田町も津波と火災で町がほぼ壊滅状態となった地域です。地元の山田RC（阿部幸栄会長）では、国内外のロータリークラブからの義援金や募金約1,000万円で、山田の町と漁港を一望できる御蔵山に、「鎮魂と希望の鐘」を建立し、併せて、この鐘と向かい合う位置に、JR陸中山田駅の駅舎屋上で、震災前から時を



刻み続けてきた山田RCが寄贈した大時計を、津波と火災で変形したままの姿で設置し、メモリアルパークに整備した上で、山田町に寄贈されました。丁度この日は、震災後1年目に当たる日。除幕式には山田町の沼崎喜一町長、救援に当たった自衛隊関係者、第2520地区：菅原一博ガバナーをはじめとする募金等の協力者・支援者多数が臨席し、犠牲者を悼み、明日への希望と復興を誓う黙祷の後、印象深い除幕式が厳かに挙行されました。なお、当地区から第2520地区に寄贈した義援金の一部が、今般の記念碑の建立資金に当てられ、かつ、三國明ガバナーと井橋吉一直前ガバナーが「山田メモリアルパーク実行委員会相談役」として、記念碑の完成にご尽力されております。また、記念碑建立の実現には、第2520地区の田口良三PDGご夫妻、第2500地区（北海道東部）並びに、第2670地区（四国4県）のロータリアン各位が多大な貢献をされています。

国際奉仕委員会 フィリピン国際奉仕プロジェクト視察・検証報告

国際奉仕委員長 菊池 和彦 (岩槻東RC)

国際奉仕委員会は、3月20日から5日間、フィリピンのRI.D3800及びRI.D3810へ国際奉仕プロジェクト視察・検証ツアーを実施しました。

主な目的は、各クラブが実施したプロジェクト補助金事業の検証、グローバル補助金事業を含めた新しい案件の発掘、RI.D3800の地区大会参加等です。

参加者は16クラブ、総勢35名でした。

数班に分かれて10件のプロジェクト検証と3件のグローバル補助金プロジェクト案件視察を行い、最終日には地区大会に参加しました。

特に小学校訪問の際には、全生徒が私達を早



くから待っており、熱烈な歓迎で私達を迎えてくれました。同行者全員が感動していました。



また、地区大会ではゲストとして紹介頂き、晩餐会にも参加しました。ガルシアガバナーはじめ、ホストロータリアンには前訪問に引き続き、大変お世話になりました。

参加者に感想を聞くと、「恵まれない子供達に希望を与えると共にとても感謝された」、「旅行では味わえない深い感動を与えてもらった」、「異国のロータリアンと友情を深めることができた」、「他国の地区大会を経験した」等でした。

これからも当委員会は、国際奉仕の素晴らしさを広報し、一つでも多くのクラブが参加して頂ける様、継続的に活動してまいります。

皆様のご理解ご協力をお願い申し上げます。

ミャンマーの小学校に教材を寄贈

三郷ロータリークラブ 千代田 利光

3月16日三郷ロータリークラブの千代田会長以下5名は、ミャンマー国ヤンゴン市から約1時間程の尼寺が経営する小学校を訪問した。机、椅子、書庫、文房具等を寄贈しました。これは国際ロータリー2770地区の識字向上運動の一環として三郷ロータリークラブが行なった事業です。

三郷市からヤンゴン市には日本語教師として滞在している岡田高弘氏が現地のNPOの方と協力して実現しました。同学校は、普通の学校に通学できない子供達（孤児を含む）を同寺が

学ばせているもので、現在350名の内150名は夏休みでも帰る所がなく寄宿舎で生活している現状だそうです。子供達もほとんど女子です。同寺の住職は「勉強に教材が不足だらけですが、こんな立派なものを頂戴し感謝しております。寄付を受けたのは今回が初めてです。」と感謝しておりました。帰り際子供達は歌を披露して下さり「ありがとう・さようなら」と日本語で見送ってくれました。学校と云っても、日本の車庫の様なところに机を並べて勉強しているあり様です。



田中作次 次年度 RI会長 ICUのロータリー平和センターで交流

地区ロータリー財団部門
ロータリー平和フェローシップ委員会
委員・第10期フェローカウンセラー
泉谷 聰 (浦和RC)

正門からキャンパスへと伸びる3分咲きの桜の並木が素晴らしい三鷹の国際基督教大学（ICU・日比谷潤子学長）は、4月5日同校にあるロータリー平和センターに対する国際ロータリーとホストエリアにおける関係ロータリアンの日頃の支援に対する感謝の集いとして、「桜を観る会」を開催した。

忙しいスケジュールの中、田中作次RI会長エレクトが出席され、第一部の高橋一生 元ICU教授・前ロータリー平和センター所長による記念講演と第二部の懇親会におけるセンターの活動報告と平和フェローの研究報告を熱心に聴講された。

第一部の高橋氏の講演では、「紛争と平和：激動する21世紀の地球社会」と題して、世界の水問題の視点から平和と紛争の構造、水問題の現状について1時間にわたって解説があった。水の偏在性についての指摘では、ユーラシア大陸の両端の島国、即ち日本とアイルランドを除いてはほとんどの国と地域において量・質・配分の現状から水問題が存在し、21世紀は水と紛争及び平和の世紀であるとして、今世紀の安全保障と動乱の地域についての研究報告がされると、田中エレクトは細かくメモとっておられた。

第二部は、北城恪太郎理事長（日本IBM最高顧問）による開会の挨拶であった。北城氏は、日本人初のRI会長に選出された、東ヶ崎潔元理事長を記念するダイアログハウスを例に挙げて、長年にわたる国際ロータリーの同大学に対する支援に対して謝辞が述べた。引き続き、田中エレクトによる挨拶があり、この中で田中エレクトは、平和センター開設以前から自身と同大学との結びつきを紹介するとともに、次年度では「奉仕を通じて平和」をテーマに掲げていることをユーモアを交えて話された。大学関係各員や10期フェローたちと挨拶され、写真撮影の依頼にも気さくに応じられていた。

2770地区は「紛争の解決と平和における国際問題研究のためのロータリーセンター・（通称ロータリーセンター）」を支援するロータリーセンター平和推進地区である。ロータリー平和フェローは、生涯、仕事や奉仕活動を通じて国内外での協力、平和、紛争解決を推進するリーダーで、ロータリー財団は、世界理解と平和・紛争解決に捧げる姿勢を持ち、世界を良い方向に変えていく担い手（ロータリー平和フェロー）を育成するためのプログラムを2002年に創設し、毎年以下の6大学において、国際関係、行政学、持続可能な開発、平和研究、紛争解決をはじめとする分野の修士号を取得、あるいは平和と紛争解決の分野における専門能力開発プログラムの修了証を取得するロータリー平和フェローシップを支援している。

ICU国際基督教大学(日本・東京)

デューク大学およびノースカロライナ大学チャペルヒル校(米国)

ブランドフォード大学(英国・ウェストヨークシャー州)

クイーンズランド大学

(オーストラリア・クイーンズランド州ブリスベーン)

ウプサラ大学(スウェーデン・ウプサラ)

チュラロンコーン大学(タイ・バンコク)－専門の能力開発プログラム



元フェロー（学友）の進路はさまざままで、草の根で活動する地元の非政府組織、各國政府、軍事、警察をはじめ、国連、世界銀行、国際移住機関、米州機構といった二カ国間組織や国際組織でも活躍している。平和構築に専念する500名を超える学友たちの世界的ネットワークは発展の一途をたどっており、ロータリー平和センター・プログラムの卒業生はこのネットワークのサポートを受けることができる。ロータリー財団とロータリアンは、ロータリー平和センター・プログラムとロータリー財団を通じて世界理解と平和を実現し、人々の間に寛容と協力の精神を広めるよう努めている。

地区ロータリー平和フェローシップ委員会は、現在近隣地区と構成するロータリー平和フェローホストエリア協議会の一員として、ICUで学ぶ第9期生1名、第10期生1名のカウンセラーを委嘱し、支援を行っている。また、田中徳尚年度には、第11期生2名のカウンセラーを委嘱して、支援を行い、さらに当地区よりこのプログラムへの応募者を募集することにしている。

東京米山友愛ロータリークラブの例会に参加してきました。

ロータリー財団部門委員長 鈴木 英男（越谷北RC）

4月4日（水）に三國ガバナー他8名のメンバーで、東京米山友愛ロータリークラブの第93回通常例会に参加してきました。

東京米山友愛ロータリークラブは2010年2月11日の創立で、米山学友を中心とした多国籍の会員からなる「新世代クラブ」として発足したもので、現在31名の会員から成る非常に活発なクラブです。例会場はホテルニューオータニで、19時30分点鐘でした。

今回の参加の目的は、第2770地区でも「学友を中心とした新クラブ結成」に向けての検討会合が持たれており、勉強のために参加させて頂いたものです。会長・幹事とも女性で、当日は林芳会長、高橋章子幹事、関博子特別代表、地区幹事様、グループ幹事様が暖かく私たちを迎えて下さいました。



この日は、ブラインドサッカーボールの贈呈式、女性新入会員の入会式等もあり、内容の多いスケジュールでした。また、会員卓話は楊錦華直前会長（女性）で「中国の医療制度」についてお話され、日本の医療制度との違いについても説明されました。

今後、当地区でも学友中心の新クラブ結成を進めるについて、大変に有意義な例会参加となりました。因みに、東京米山友愛ロータリークラブの例会では食事もなく、コーヒーとお茶菓子のみでした。

（例会参加者）

三國 明	ガバナー	春日部西
岩渕 均	地区ロータリー財団委員長	浦和
磯貝九万	米山記念奨学部門委員長	八潮
鈴木英男	ロータリー財団部門委員長	越谷北
片寄芳美	新世代部門委員長	越谷南
中里公造	米山記念奨学学友委員長	川口モーニング
増渕一夫	財団奨学・学友小委員長	さいたま中央
関根裕子	ロータリー財団学友会会长	
小池剛史	ロータリー財団学友会副会長	

「第1回財団学友・米山学友合同観桜会」報告

2011-12年度ロータリー財団部門補助金委員長 下 和雄（大宮シティRC）

4月8日（日）晴天の春うららかな日曜日、満開の桜が咲き誇る「大宮公園」において財団学友と米山学友合同による花見会が開催されました。この企画は先立って開催された「学友クラブを結成する会」で学友同士の交流を深める為にという事で初めて開催された行事です。

当日は、三國ガバナーをはじめ鈴木英男地区財団部門委員長や磯貝九万地区米山奨学部門委員長をはじめとする地域役員10名と、関根裕子財団学友会会长や李成哲米山奨学学友会会长を含めた学友17名の参加を得て、桜名所の大宮公園で満開の桜を満喫した後、大宮駅近くの「徳樹庵」に於いて両学友会の交流会（懇親会）が開催されました。

交流会では参加者同士「学友の新クラブ設立」に向けての思いを語り合い、和やかな雰囲気の中で両学友会の交流と親睦を深める事が出来ました。参加者の中からは「これからは両学友会の交流をもっと図り、学友同士の親睦を深め学友会の活性化につなげていったらどうか」という意見が数多

く出されました。そして学友同士の職業・人柄を知ることによって相互理解と信頼が生まれ、「学友の新クラブ結成」への礎となるのではという事を確信しました。

又当日、関根財団学友会会长から「学友かわら版」第1号が配布され、学友会の自主的な活動が期待される微笑ましい一面も見受けられました。

「学友の新クラブ結成」の為にはロータリアンの陰の援助が必要であり、学友の交流にアンダーサポートをしていく必要があると思います。

今後の学友会のさらなる交流に期待を寄せて、両学友による「観桜会」の報告とさせて頂きます。



先輩より**『誇りをもってロータリーを広報しよう』**

パストガバナー 大塚 信郎

私がロータリーと出会ったのは1964年、父が軽井沢ロータリークラブに入会した時です。当時中学生だった私は、（父がたぶん会報委員だったのでしょう）贋写版（ガリ版）での印刷を手伝った思い出があります。また、家族例会にもよく出席しました。美味しい料理をいただきながら「僕も大きくなったらロータリアンになって、沢山の友達と楽しい食事会ができたらいいな」と子供ながらに想いを寄せておりました。開業して3年目の1981年にロータリーに誘われたときは、なんの躊躇もなく上尾ロータリーに入会させていただきました。

そして、2009～2010年度2770地区ガバナーを仰せつかったのであります。私のモットーは「楽しくなければロータリーではない」です。ロータリー活動は本当に楽しいものだ・楽しまなければいけないと常に感じ行動しております。

この度「クラブ活性化を語る」とのテーマでの原稿依頼を戴き、改めて考えてみました。

地区として直近15年間で1500名の会員減少があった事を考えますと、会員増強こそ「クラブ活性化」の源になることは明白です。では、ロータリーに勧誘したとき、スムーズに新会員になって頂くにはどうしたらよいでしょう。

それは、ロータリアン一人ひとりが「自分を磨き」周囲の人々から敬愛される存在になること。

「いつか私もロータリアン」と周囲の人が感じるような奉仕活動を展開することだと思います。

そしてロータリーの「歯車」を見たとき人々が、興味の眼差しを向けて下さるようになることです。

最近ロータリーカードで2つの経験をしました。「コジマ電気」でロータリーカードを使い買い物をした時、女性店員より「お客様は、ロータリアンですね」と話しかけられました。聞くところによると、彼女は三重県で米山記念奨学生として勉

強し、現在は結婚して上尾に在住していることです。中国出身の方で「石沢」姓のネームプレイトを付けていました。名刺を渡し、ロータリー談義をし、気持ちの良い買い物ができました。

次は「浦和伊勢丹」で買い物をしたときの事です。女房と共に椅子に座って商品の説明を受け決済のとき、ロータリーカードを出した私が、「このマークご存知ですよね」と問い合わせましたところ、50代半ばの女性店員は、あっさり「存じません」と。横から女房が「ロータリークラブとかライオンズクラブがあるのはご存知でしょ」と言いましたら、「あ・西武ライオンズなら知っています」と言われ愕然としました。

ブランドとしての「歯車」・ステータスマーケとしての「歯車」を確立しなければ私たちロータリーの未来の展望が開けないので、と痛感した出来事です。

それには、常日頃クラブ活動において、人も羨むほどの奉仕活動・親睦活動を実施し、お互い切磋琢磨し、周囲の方々より敬愛される存在になり、ロータリーマーク「歯車」に誇りをもち、ロータリーマークの認知度を高めていくことだと思います。

例えば、ロータリアン全員が「ロータリーカード」で極力決済をしたら。「浦和伊勢丹」でロータリーカードの決済が増えれば店員さんたちの「歯車」認知度は上がります。そこからのクチコミでどのような広がりがもたらされるか？・これをすべての買い物で行なったらどうなるでしょう。

そして、ロータリアンの事業所及び自宅玄関に大きなロータリーマーク「歯車」を掲げておくのはどうでしょう。原点を見つめ、ロータリーの素晴らしさを皆でアピールしようではありませんか。



先輩より



クラブの活性化は私達一人ひとりから

直前ガバナー 井橋 吉一

私達、ロータリアンはロータリーについて学び、社会に奉仕して、会員の親睦を深め将来のリーダーを育てるクラブとなるためにクラブを活性化する一翼を担っています。

この責務についてロータリアン一人ひとりが確認してロータリー活動に参加しましょう。

クラブ活性化の具体的な方策を提案しますと

1、クラブ例会の充実

クラブ会員のロータリー活動は毎週の例会がほとんどです、そして例会は会員の友情を深め、会員相互の認識を深め、ロータリーに関する認識を深め、職業に関する情報や地域の情報を得る最良の機会です。例会運営は定例的に行う行事は規律を持って拡張高く行い、卓話等の主題プログラムは上記のような機会を提供するテーマとして、内容の充実が必要です。

2、クラブ活動についてクラブ全員の共有化

年次目標の計画過程において会員が関与する為にクラブ協議会を開催してロータリーの活動に関する情報を会員に伝え、意見を収集する。それによってクラブ会員全員がクラブの活動に参加しているという実感が会員に必要で、クラブ会員としての誇りが芽生える。

3、会員増強

毎年クラブには新しい会員の入会によって適正な会員数の維持と年齢層の適正な分布が必要です。新しい会員の入会、または女性会員の入会によってクラブ内が活性化します。

4、親睦活動の充実

親睦を企画する時にはクラブ内の年齢層と女性会員、職業の多様性を考慮して全員が参加でき、交流を深める企画と参加した会員すべてが相互の交流を深める運営の実践が大切です。

5、ロータリーの公共イメージ向上はクラブ活性化に繋がる

クラブでロータリー活動を行うとき、ロータリアンが個人で奉仕活動を行うとき、職業に従事しているとき、いずれのときもロータリーの公共イメージ向上を意識した行動が必要です。

後輩より



平成23年10月13日入会／第5グループ

クラブの活性化について思うこと

田邊 聖 (鴻巣水曜RC)

私が当クラブに入会したのは昨年の10月です。クラブの先輩である小畠正勝会員の紹介によるものでした。小畠会員が熱心なロータリアンであることは以前から存じていましたが、入会を勧められ事はまさに青天の霹靂でした。同時に、仕事と両立させて活動していくのかどうか、不安な気持ちになりました。しかしながら、初めてゲストとして例会に参加した時には、メンバーの皆様が暖かく迎え入れてくれ、不安はこれからの活動への期待へと変わりました。本当にあ

りがとうございました。さて、本題です。これは会員増強だと思います。私のような新会員が、クラブの一員であることに自信と誇りを持ち、「奉仕の理想」を鼓吹し続けることが、私がそうであったように、次なる会員拡大へつながるのではないかと思います。このような連鎖による会員増強が、クラブを活性化させてくれるのではないかでしょうか。最後になりましたが、入会して間もない私に、このような寄稿の機会を与えてくださいお礼を申し上げます。ありがとうございました。

ロータリー財団	大口寄付 38,725\$ ベネファクター	大口寄付 38,325.56\$ ベネファクター	大口寄付 27,750\$	大口寄付 27,000\$	大口寄付 19,100\$	大口寄付 12,000\$							
	大塚信郎 (上尾) 平成24年3月15日		岩渕均 (浦和) 平成24年3月21日		中村秀夫 (上尾西) 平成24年3月21日		杉田政男 (岩槻東) 平成24年3月27日		竹ノ谷光美 (川口南) 平成24年3月27日		浜野英美 (大宮シティ) 平成24年3月27日		
M·P·H·F(8)		M·P·H·F(6)		M·P·H·F(5)		M·P·H·F(4)		M·P·H·F(4)		M·P·H·F(3)		M·P·H·F(3)	
倉林巖 (浦和南) 平成24年3月19日	配島一弘 (大宮シティ) 平成24年3月27日	北西功 (上尾西) 平成24年3月21日	渡邊和孝 (さいたま中央) 平成24年3月22日	島田幸男 (大宮シティ) 平成24年3月27日	金子弘 (さいたま中央) 平成24年3月22日	成田光安 (鳩ヶ谷) 平成24年3月23日							
M·P·H·F(3)		M·P·H·F(2)		M·P·H·F(2)		M·P·H·F(2)		M·P·H·F(2)		M·P·H·F(1)		M·P·H·F(1)	
東秀文 (三郷ウエンズデー) 平成24年3月27日	水上町子 (川口北東) 平成24年3月16日	小倉利夫 (川口) 平成24年3月23日	川島健 (川口西) 平成24年3月27日	名古谷誠 (浦和) 平成24年3月29日	竹中永隆 (鳩ヶ谷シティ) 平成24年3月21日	須藤和英 (さいたま中央) 平成24年3月22日							
M·P·H·F(1)		P·H·F		P·H·F		P·H·F		P·H·F		P·H·F		P·H·F	
井上悟 (大宮シティ) 平成24年3月27日	辻隆幸 (浦和南) 平成24年3月19日	三浦豊代 (さいたま中央) 平成24年3月22日	竹ノ谷裕子 (川口) 平成24年3月23日	岡本圭司 (大宮シティ) 平成24年3月27日	磯利昭 (川口北) 平成24年3月28日	谷口顕 (川口北) 平成24年3月28日							
ベネファクター		ベネファクター		米山奨学会		米山功労者メジャードナー(12)		米山功労者メジャードナー(10)		米山功労者マルチブル(9)		米山功労者マルチブル(8)	
清水恒信 (大宮西) 平成24年3月14日	浅水尚伸 (越谷南) 平成24年3月30日			中島美三郎 (越谷) 平成24年3月14日	永嶋輝一郎 (上尾西) 平成24年3月21日		豊田良男(故) (越谷) 平成24年3月14日		岡崎力男 (越谷) 平成24年3月14日				

2011~'12年度

3月の会員数及び出席率報告

グループ	クラブ名	2010年7月1日現在		当月末会員数 内女性	増減 内女性	目標 新会員	通算 新会員	当月		通算 出席率 順位
		会員数	内女性					出席率	順位	
第一グループ	浦 和	101	0	99	0	-2	5	2	85.25	31 25
	浦 和 東	78	2	80	2	2	3	4	91.80	9 5
	浦 和 南	29	0	27	0	-2	3	0	94.67	3 2
	浦 和 中	36	2	36	2	0	5	0	87.50	18 9
	浦和ダイヤモンド	20	9	18	8	-2	2	0	90.27	12 4
	第1グループ計	264	13	260	12	-4	18	6	89.90	
第二グループ	浦 和 北	70	3	71	3	1	10	5	86.11	28 7
	さいたま中央	45	1	45	1	0	3	0	82.78	42 41
	浦 和 西	20	3	19	3	-1	4	0	75.93	65 72
	浦 和 北 東	42	1	43	1	1	6	2	82.11	46 53
	さいたま新都心	40	0	41	0	1	4	3	91.87	8 6
	第2グループ計	217	8	219	8	2	27	10	83.76	
第三グループ	大 宮	52	0	53	0	1	10	7	83.66	38 48
	大 宮 南	35	5	35	5	0	5	4	85.71	30 57
	大 宮 中 央	48	0	45	0	-3	5	1	64.90	77 74
	大 宮 南 東	7	2	10	2	3	3	4	78.00	60 68
	大 宮 シ テ イ	62	5	65	5	3	8	4	77.27	62 58
	さいたま 櫻	21	0	22	2	1	3	2	80.30	51 59
第四グループ	第3グループ計	225	12	230	14	5	34	22	78.31	
	大 宮 西	66	0	75	0	9	20	10	87.67	17 37
	岩 樹	29	4	29	4	0	2	1	51.72	78 80
	大 宮 北	22	1	22	1	0	3	0	92.16	7 15
	大 宮 南 西	9	1	7	1	-2	2	0	87.50	18 69
	大 宮 東	36	0	37	0	1	5	3	64.91	76 56
第五グループ	岩 樹 東	29	1	29	1	0	3	0	88.50	15 46
	大 宮 北 東	16	2	15	2	-1	3	0	86.67	24 32
	岩 樹 中 央	14	0	15	0	1	1	1	76.66	64 55
	第4グループ計	221	9	229	9	8	39	15	79.47	
	上 尾	39	1	39	1	0	3	0	83.97	36 27
	鴻 巣	27	0	25	0	-2	3	0	93.60	4 1
第六グループ	桶 川	22	0	22	0	0	2	0	87.09	22 76
	上 尾 西	41	0	41	0	0	5	2	93.27	5 18
	北 本	8	0	9	0	1	2	1	87.50	18 26
	上 尾 東	19	0	19	0	0	2	0	74.02	68 44
	上 尾 北	27	0	27	0	0	3	0	96.92	2 3
	鴻 巣 水 曜	31	3	30	3	-1	3	1	93.10	6 51
第七グループ	桶川イブニング	16	0	16	0	0	2	0	91.67	10 67
	第5グループ計	230	4	228	4	-2	25	4	89.02	
	春 日 部	41	0	42	0	1	5	3	81.97	47 17
	杉 戸	26	1	27	1	1	2	2	86.39	26 42
	春 日 部 西	35	2	33	2	-2	3	2	79.94	55 65
	庄 和	19	0	21	1	2	1	2	85.80	29 13
第八グループ	春 日 部 南	28	4	30	4	2	5	3	83.19	39 71
	春日部イブニング	22	1	22	1	0	3	0	90.00	13 23
	杉 戸 中 央	24	0	23	0	-1	2	1	73.91	69 66
	第6グループ計	195	8	198	9	3	21	13	83.03	

グループ	クラブ名	2010年7月1日現在		当月末会員数 内女性	増減 内女性	目標 新会員	通算 新会員	当月		通算 出席率 順位
		会員数	内女性					出席率	順位	
第七グループ	幸 手	41	2	42	2	1	5	3	82.53	44 20
	蓮 田	33	0	37	0	4	6	4	85.13	32 39
	久 喜 菖 蒲	57	4	58	4	1	6	3	82.45	45 49
	栗 橋	12	0	12	0	0	2	0	80.00	53 54
	幸 手 中 央	24	1	25	1	1	3	1	78.67	57 62
	第7グループ計	167	7	174	7	7	22	11	81.76	
第八グループ	越 谷	80	2	79	2	-1	5	3	80.29	52 50
	越 谷 南	51	3	53	3	2	5	7	78.37	58 75
	越 谷 北	51	0	52	0	1	5	1	84.43	34 43
	越 谷 東	47	6	50	8	3	2	3	77.79	61 38
	越 谷 中	12	0	16	0	4	2	4	89.16	14 24
	第8グループ計	241	11	250	13	9	19	18	82.01	
第九グループ	草 加	18	2	16	2	-2	5	0	66.00	75 78
	八 潮	47	4	47	4	0	12	1	86.74	23 14
	草 加 南	12	1	12	1	0	2	1	80.00	53 33
	八潮イブニング	24	0	24	0	0	4	0	74.62	66 29
	草加イブニング	11	0	13	0	2	2	3	76.92	63 30
	八潮みらい	24	0	26	0	2	3	6	100.00	1 11
第十グループ	草 加 中 央	23	0	23	0	0	2	0	81.53	49 35
	草 加 21	8	3	0	0	-8	3	1	0.00	73
	第9グループ計	167	10	161	7	-6	33	12	70.73	
	吉 川	31	1	32	1	1	5	2	80.56	50 31
	三 郷	30	2	29	2	-1	3	1	83.79	37 34
	三 郷 中 央	17	0	19	0	2	3	2	72.52	70 16
第十一グループ	三郷エンズデー	20	2	20	2	0	4	2	82.89	41 45
	松 伏	11	3	13	3	2	4	2	84.61	33 21
	第10グループ計	109	8	113	8	4	19	9	80.87	
	川 口	82	11	88	13	6	5	8	84.36	35 60
	鳩 ケ 谷	25	0	26	0	1	0	1	82.68	43 36
	川 口 東	19	1	18	0	-1	5	0	87.50	18 10
第十二グループ	川口・鳩ヶ谷武南	26	2	27	2	1	2	1	67.94	72 61
	川口モーニング	26	1	22	1	-4	5	0	90.99	11 19
	川 口 南	31	4	30	4	-1	2	1	67.17	73 79
	鳩ヶ谷シティ	14	0	15	0	1	3	1	88.25	16 12
	第11グループ計	223	19	226	20	3	22	12	81.27	
	戸 田	52	5	52	5	0	3	1	78.35	59 63
第十三グループ	蕨	26	1	26	1	0	3	0	86.67	24 47
	川 口 西	27	3	28	3	1	3	1	71.00	71 70
	戸 田 西	29	1	28	1	-1	2	0	83.08	40 22
	川 口 北	33	2	33	2	0	20	0	81.93	48 28
	川 口 北 東	28	4	27	4	-1	5	1	78.78	56 40
	川 口 中 央	13	1	13	1	0	2	0	86.37	27 8
第十四グループ	川口むさし野	19	1	17	1	-2	3	0	66.17	74 77
	戸田イブニング	18	0	19	0	1	3	1	74.44	67 52
	第12グループ計	245	18	243	18	-2	44	4	78.53	
	地 区 合 計	2504	127	2531	129	27	323	136	81.28	

※会員数及び出席状況の報告は翌月の14日までにお願いします

※八潮中央RCと八潮シティRCは2/23付で「八潮みらいRC」となりました。